

2016年10月7日

報道各位

ニューホライズン キャピタル株式会社

株式会社さが美のプレスリリースについて

平成28年10月3日付で株式会社さが美（以下「さが美」）が発表した「ニューホライズン キャピタル株式会社のプレスリリースについて」というプレスリリースについては、当社と見解の相違がありますが、本件提案においては本質的な問題ではなく、友好的な雰囲気の中で話し合いを進めることが必要との判断に基づき、特段の反論を控えて参りました。

然しながら、昨日、同社の代理人弁護士より、「当社リリースにおいて、貴社リリースにおける当社事実認識の違いを指摘させていただいておりますが、貴社と当社のこれまでの関係性について誤解を与え、投資家の投資判断に誤らせる可能性がありますので、速やかにご訂正頂くようお願いいたします」との要求がありましたので、やむを得ず以下の通り反論させて戴きます。ただし、当社としては、このような感情的かつ客観性に欠ける議論の応酬は極めて非生産的であると考えており、引き続き友好的な雰囲気の中で、当社の提案が正当に評価されることを希望致します。

1 当社の主張について

平成28年9月27日付の当社のプレスリリース内容のうち、当社とさが美の関わりについて、2007年頃から再生計画案について意見交換を継続していること、2015年7月にさが美経営陣に対して同年12月にはユニーグループHDに対して事業構造改革計画案と、そのために必要な資金を賄うための増資、及び、ユニーグループHDが持つさが美株式の一定割合までの買い取りを提案したこと、その時に提案したいくつかの施策は、さが美が2016年3月に開示した再生案に反映され実行されたことなどは、すべて事実 に即したものであり、必要があれば、さが美の了解が得られることを前提として、面談日時や、当時の提案書を開示する用意があります。

むしろ、当社としては、当時の提案において「株式買取価格は1株75円～100円、債権放棄は求めない」という好条件を提示していたことに照らし、その僅か数か月以内に、「株式買取価格は1株56円、16億円の債権放棄を求める」というAG2号投資事業有限責任組合（「AG2」）の案が採用されたことについて、取締役の善管注意義務の観点から理解に苦しむところであり、直近の当社の提案も、AG2の提案する株式買取価格より60%以上高い株式買取価格を提示しているのであり、取締役の株主に対する善管注意義務の観点から正常な判断を下されることを改めて希望します。

2 理解に齟齬が生じた可能性について

以上の通り、当社のプレスリリースの内容に一切誤りはありませんが、昨年12月に提出した当社の提案は、以前からさが美経営陣と行なってきた議論を踏まえてなされたものであるがゆえに、その後実行されたさが美の再生案と重なる部分があったのはむしろ当然です。その再生案は、もともとさが美経営陣が自ら考えていたことであって、「当社の意見を踏まえて内容を変更した」わけではない可能性はありますが、むしろそれだけ当社の提案が経営陣の意向を踏まえた現実的なものであったことの証左であります。

以上

ニューホライズン キャピタル株式会社

産業再編、事業再生のプロを多数擁する独立系企業再生（PE）ファンド。2002年2月に創業した前身のフェニックス・キャピタル時代から2006年10月の会社分割を経て通算14年超の実績（独立系ファンドとしては最大規模の累積運用資産総額2,500億円超）を背景に、NHCとして2本目、創業から8本目のファンドを運営しています。2002年以来、すべてのファンドの創設時にキーマン（主運用責任者）をつとめてきた安東泰志をはじめとするNHCのチームメンバーは、三菱自動車、ティアック、東急建設、不動建設、世紀東急工業、市田、ツムラ、日立ハウステック、丸茂工業、まぐまぐ、iaeホールディングス、たち吉、武田産業、Shade3D社など、開示可能なエクイティー投資先だけで35社、全体では90社以上という日本随一の企業再生・再編成長投資実績を有しています。

本件に関する問い合わせ先：

NHC 広報担当（IFC）竹江、連絡先 03-5532-8921